

「3年目のしあげにむかって」

平田小学校3年目も最後の月になりました。学校は一年間の締めくくりや卒業式に向かって一丸となって進んでいるところです。学校経営においては、今年度の評価をもとに、来年度の教育課程編成作業を進めているところです。そこで、今年度の評価と来年度の方向について、今現在の状況を説明させていただきます。

1. 学校教育目標「高い志を持ち、たくましく生きる子の育成」について

開校以来の目標を、次年度に引き継いでいきます。開校当初に比べ、学校全体も落ち着き、子ども達は安定した学校生活を送っていると思います。しかし、学力や心の強さ（たくましさ）の面では、伸ばす必要があります。

今後は27年度スタートの山形県第六次教育振興計画や酒田市の教育振興基本計画後期計画に基づくともに、「特別の教科 道徳」や英語の教科化など、新しい指導要録の動きに向けた情報収集や対応への検討が求められることになります。また、人口の減少に対し、地域の振興に寄与する人づくりにもつながる教育活動や地域との関わりについて、長期的な展望も必要になると考えます。その一環としての家庭、地域の教育力向上に対するアプローチも重要になると考えております。



2. 経営の重点について

1) 地域に根ざし、地域とともに歩む、開かれた学校づくりの推進（地域素材、地域人材の活用）



○昨年度は、三地区で複数の地域交流活動を行う学年があり、授業時数確保に悩んだことがありました。そこで、交流活動の系統性を配慮しながら学年の取り組みを調整してきました。

その結果、5年生は保育園、6年生は福祉施設等のようにそれぞれの学年のねらいに向けて、充実した活動を計画通り行うことができました。また、各地区コミ振の「地域の教育力向上事業」を活用し、PTA 親子研修や総合的な学習などで取り組み、各地区のコミセン祭りなどで成果を披露させていただきました。なお、

コミセン祭りには、児童の居住地区だけでなく、友達の数にも参加する児童も増えてきており「自分たちの地区」の意識の広がりも感じられました。

○今年度は教職員が地域のことについて学ぼうと、2日間にわたって、北平田、東平田地区の現地研修を行いました。各地区の方から貴重な資料を見せていただいたり、説明をしていただきながら、地域学習の教材研究を深めることができました。また、講師の先生方の地域を誇りにし、大切



に思う気持ちを実感し、教師もまた地域を愛し、大切にすることを共有できたと思います。

▲地域交流活動以外にも、事前準備や練習、事後の指導に相当の時間を設定することもあり、今後も教育計画の運用について、調整していく必要があります。

▲2月下旬開催の学校評議員会においても、各集落の少子化と人口減少について話題になりました。地域の誇りでもある伝統行事の変容や衰退が懸念される中、「地域を愛し、誇りに思う心」や「将来、地域の振興に貢献できる人材」の育成の視点からも、地域との関わりを密にしていくことの大切さが確認されました。

2) 「確かな学力・基礎基本の確実な定着」の推進

○昨年度に引き続き、安定した学級集団をもとに、①授業改善と②教師の授業力アップを図るために、森川みや子先生を講師に招き、一人ひとりの先生方に、指導内容の分析や授業の組み立て方などを具体的に指導していただきました。

また、全国学テの結果を受けて、職員研修を実施し、出題の意図や課題を分析しながら、自分たちの授業改善について研修しました。対応策としても抽象的なものではなく、県教委作成のスパイス問題を全学年で行うことや、上位の子に対しても応用問題に多く取り組ませるなど、具体的に提案し合い、実施することにしました。また、次年度の教育課程編成にあたって、日課表や教育活動の実施時期、内容についても改善を図っているところです。

○学級学年だよりは、どのような学び方をしているのか、お家で取り組んでいただきたいことなどを具体的にお伝えするようにしました。また、友達の様子をお手本にするなど、家庭においても子どもと話題にしながら、活用いただければ幸いです。（例：家庭での読書の奨励、友達のノートの工夫の様子、卒業を前に提出物が提出されないことへの危機感、行事の振り返り感想等）

○授業参観は、普段の学びについて、ご家族の皆様からも学んでいただく場と考え、学習がどのように進められるのか、学び方はどのように変わってきているのかを家庭に伝え、家庭での指導に生かしていただけるようにしました。今後、「探究型授業」といって、課題を自分で見つけ、自分たちで解決の見通しを立て、友達と議論を深めながら解決していく学習が中心となります。また、読み書き計算等の基礎技能は当然のことながら、自分の考えの根拠を明確にしながら考えを伝えることが大切になってきます。そこで、今後も授業参観にはぜひともご来校いただき、子ども達の学び方を参考にいただければ幸いです。



○読書については、貸し出し冊数の目標が達成されているものの、家庭への学校評価アンケートでは、子ども達が読書好きであるという実感はあまり感じられていないという結果でした。このことから、「本は借りるが、家で読書する時間の確保」という課題が浮かび上がりました。そこで、学校も含めて、家庭とともに、読書する姿が自然に見られる学校、家庭・地域の風土づくりや読書の質の向上について検討していきたいと考えております。

○昨年度に引き続き、阿蘇孝子氏の読み聞かせや、読書での異学年交流（リーディングバディ）など、読書習慣を中心に様々な取り組みを行いました。また、毎月の方々や母親委員会の読み聞かせなど、読書の楽しみをたくさん体験してきました。





▲全国学力・学習状況調査（全国学テ）やCRTテストの結果については、課題が残っています。放課後学習日の設定により、確実な定着を図ってきましたが、より効果的な指導が必要です。また、県のさんさんプランの加配教員や市の教育支援員の活用についても、教職員が加配の趣旨を十分に理解し、より一層効果的な活用を図っていく必要があります。さらに、新しい学習指導要領や英語、道徳の教科化など、教育情勢に即応した指導に向けて、一層の専門性の向上に努めていきます。

▲二中との情報交換を密にしていく中で、小中9年間の学びと育ちを意識しながら連携強化に努めて

いきます。お互いの実態や課題を忌憚なく情報交換する中で、課題意識を共有しながら解決に努めていきます。

3) 「いのち」を大切に、豊かな心を育み、関わりあう集団の育成

○学校は子ども達にとって、居心地のいい場所にしたいと願っております。しかし自由気ままに生活できる場ではありません。お互いがいい思いで生活するためには、一定のルールや決まり、エチケットなどがあります。個々の価値観は尊重されますが、学校の集団生活においては、個々の価値観を集団に合わせて調整していく力も求められます。大人の社会も同じです。自己有用感をもとに、友達の存在感を認め合うことで、学校や学年の集団への所属意識を高め、属することの安心感と充実感のある生活を今後も目指していきます。

○異学年グループでの清掃活動や運動会などの学校行事、休み時間の遊びなど、子ども達は様々な場で関わり合いながら、人との適切な関わり方やルールを学び、身につけながら成長していきます。また、成長していく過程で困難やトラブルが発生することもあります。自らの力で乗り越える体験を積み重ねさせながらよりよく生きる術を学ばせたいと考えています。

▲「いじめの調査」を実施しましたが、何件か発生しました。子どもからの聞き取りをもとに、教職員が情報を共有し、学年や子どもの実態に応じ、繰り返さないための指導と事後の見届けを行ってきました。保護者の方にも説明しながら、ご理解とご協力、ともにいい方向に向けて連携していくことをお願いしてきました。今後も、「いじめはどの学校でも、どの子にも起こりうる」ことを前提として、子ども達と向き合っていきます。皆様からのご理解とご支援を引き続きお願いいたします。



4) 心身ともにたくましく育つための教育活動の推進

○今冬は例年になく雪が少ないため、インフルエンザの流行も遅く、3学期になって罹患患者が出てきております。初期はA型でしたが、最近はB型が多くなっております。引き続き手洗いうがいを指導していきますが、家庭においてもご指導よろしく申し上げます。

○毎月1回、ロング昼休みに当番の先生が動的 안전点検を実施しております。また、日常的に教職員が、施設設備や子ども達の様子を見て、危険な場面や違和感を感じた時には、「ヒヤリハット報告」用紙に記入し先生方に回覧して、危険予防に努めております。来年度は、より一層の危険回避をめざして、動的 안전点検の回数や実施方法について検討する予定です。

- ▲「歩く」機会を増やしてあげてください。昔と違い、都会に比べ、明らかに歩く機会が少ないものと思われます。地吹雪の中「かわいそう」という思いは当然かと思いますが、体力だけでなく精神面もたくましく育ってきた当地区の伝統を大切にしていなければ幸いです。「心のたくましさ」を様々な場面で育てていくことは、中学校の生活にも直結する大きな課題です。
- ▲保護者アンケートで、屋外の固定遊具の設置に関する要望が何件ありました。開校当初は地区運動会のテント設置の場所の実態を調査しながら可能な場所を検討していくことにしておりました。今年度三地区合同の運動会が実施された結果、遊具設置が可能な場所は、グラウンド西側の滑り台の前方付近かと思われます。ただし、暗渠やグラウンド証明の地中ケーブルの設置場所の調査も必要かと思われます。さらに駐車場と昇降口前の間の藤棚横も想定されますが、すぐ脇を自動車が通行するため、安全確保のための柵の設置も一緒に考える必要があるかと思われます。また、平田中学校時代の「タイムカプセル」も埋められており、慎重な対応が必要です。いずれにせよ、それ以外の場所については、敷地の構造上困難かと思われます。また、設置する設備は、うんていのみ体育用として予算要望できますが、それ以外は「遊具」となるため、市費での設置はできません。そこで、予算の確保についても今後検討が必要になるかと思われます。
- ▲視力検査や歯科検診で通院を勧められた子の受診者が学年によって大きく異なることが大きな課題です。また、朝食を十分に食べてこない子や遅くまで起きている子がいることも課題です。授業中にウトウトする子も少数ですがおります。原因は寝不足です。家族が寝静まっている中、ゲームをしている子もおります。子どもだけが個室で過ごす時間はどのくらいでしょうか？スマホやゲーム機のネット環境が整い、アダルトの世界に入り込む環境にある子もいないでしょうか？「子どもの自主性の確立」の裏に、危険も潜んでいる現実をどうか把握し、対応していただければ幸いです。

5) 安心安全な学校づくり

○通学に関しては、見守り活動や状況に即した対応をしていただき、感謝しております。年度当初、交通事故が発生しましたが、スクールバスの運行経路について検討の上、教育委員会とも協議し、より安全な運行経路に変更しました。現在は事故もなく安全に通学しております。

○平田小みまもり隊の皆様方のご協力をいただき感謝しております。今後も各地区での見守り活動をお願いいたします。



▲自転車乗りについては、大きな事故は発生しておりませんが、春休みにかけて自転車に乗る機会が出てくるかと思えます。来年度の交通安全教室までは、旧学年の範囲での自転車乗りをお願いします。自転車の点検はもちろんですが、子どもの自転車乗りの技能や交通ルールの理解の程度についても実際に確認していただき、事故絶無に向けて対応していただければ幸いです。

▲自転車での加害事故に対する損害賠償もかなり高額な判決が出ております。最悪の事態を想定して、保険加入という備え

についても、家庭で検討していただければ幸いです。

まだまだ書き足りないところはありますが、機会を見ながら皆様にお伝えしたいと考えております。今後とも、家庭、地域の皆様のご支援とご協力をどうかよろしくお願いいたします。